

都民のスポーツ活動・パラリンピック に関する世論調査〈概要〉

平成31年2月

調査実施の概要

1 調査目的

東京都スポーツ推進総合計画に掲げた達成指標の進捗を把握し、2020年とそれ以降に向け、スポーツ都市東京の実現のためのスポーツ推進策を展開するため。

東京2020パラリンピック競技大会や障害者スポーツの認知度等を把握することで、大会の成功と障害のある人もない人もともにスポーツに親しむことができる環境を整備するための参考とするため。

2 調査項目

- (1) スポーツに対する意識
- (2) するスポーツ
- (3) みるスポーツ
- (4) 支えるスポーツ
- (5) ラグビーワールドカップ2019TMの周知度・関心度
- (6) 障害者スポーツ・パラリンピックへの関心度等

3 調査設計

- (1) 調査対象：東京都全域に住む満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数：3,000標本
- (3) 標本抽出方法：住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- (4) 調査方法：調査員による個別訪問面接聴取法
- (5) 調査期間：平成30年9月7日～9月23日
- (6) 調査実施機関：株式会社 エスピー研

4 回収結果

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) 有効回収標本数 (率) | 1,818標本 (60.6%) |
| (2) 未完了標本数 (率) | 1,182標本 (39.4%) |

東京都生活文化局

調査結果の概要

※nは質問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す

※M. A. はいくつでも選択

※M. T. は回答の合計をnで割った比率

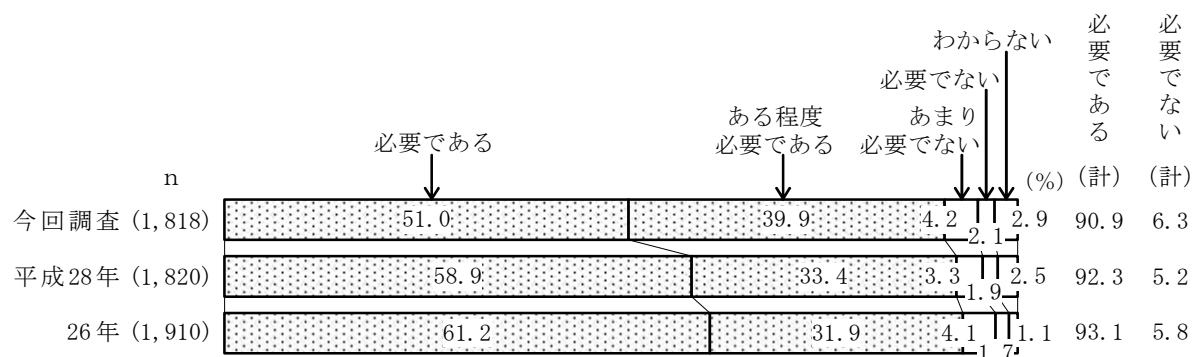
1 スポーツに対する意識

(1) スポーツに対する意識

スポーツ活動全般（実施だけでなく、観戦、支援、スポーツイベントの開催を含む）についてどの程度必要だと思うかを聞いた。

(本文P3～P8)

- ・『必要である（計）』は91%（平成28年より1ポイント減少）
- ・『必要でない（計）』は6%（平成28年より1ポイント増加）



(注1) 『必要である（計）』は「必要である」「ある程度必要である」の合計

『必要でない（計）』は「必要でない」「あまり必要でない」の合計

(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査（平成26年10月調査）」

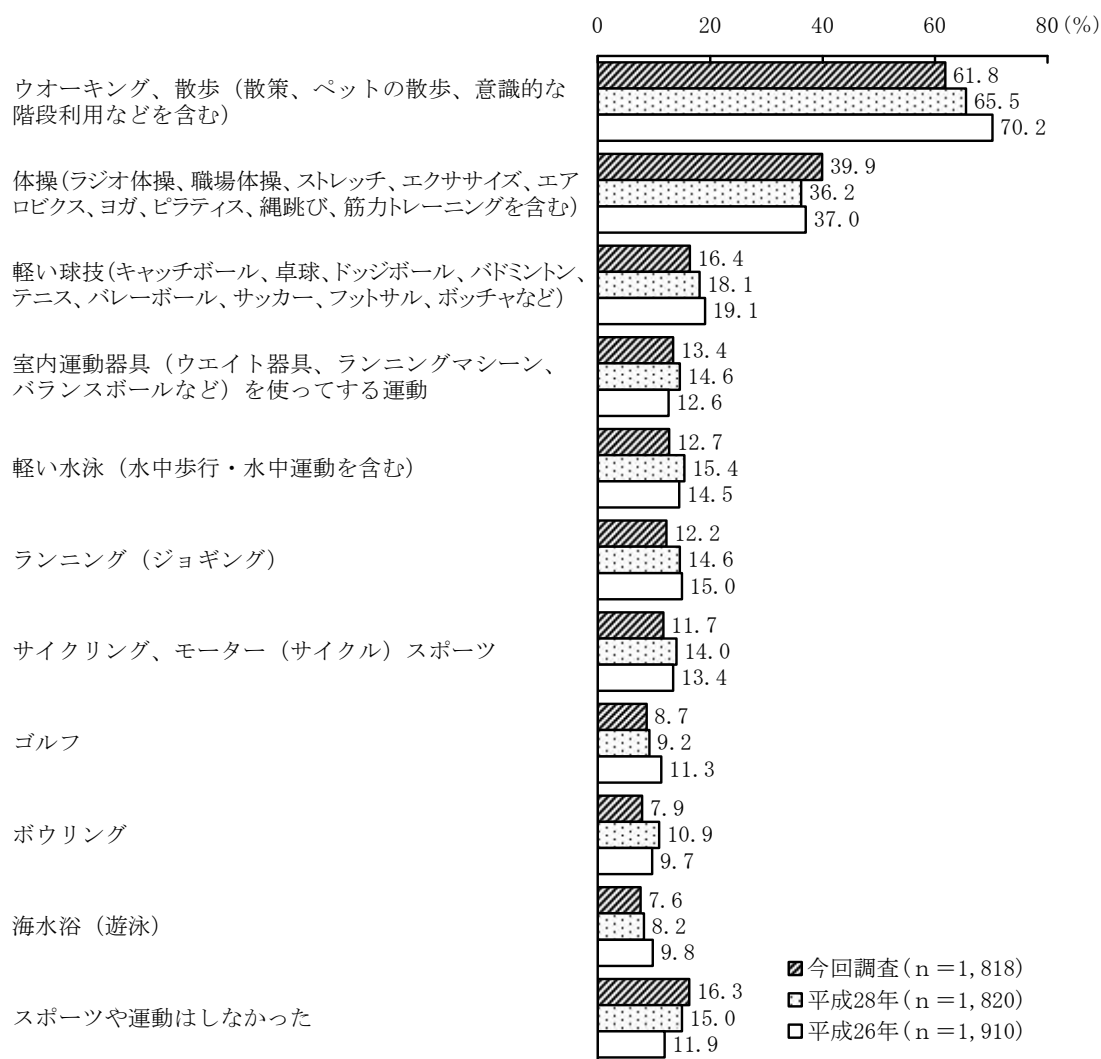
2 するスポーツ

(1) スポーツ・運動の1年間の実施状況

この1年間に実施したスポーツや運動の種目を聞いた。(M. A.)

(本文P9～P15)

- ・「ウォーキング、散歩」が62%でトップ（平成28年より4ポイント減少）
- ・「体操」40%、「軽い球技」16%が続く
- ・「スポーツや運動はしなかった」は16%（平成28年より1ポイント増加）



(注1) 選択肢は全38種目のうち上位10種目および「スポーツや運動はしなかった」

(注2) 「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩、意識的な階段利用などを含む）」は平成28年以前では「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩などを含む）」

(注3) 「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳び、筋力トレーニングを含む）」は平成28年以前では「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びを含む）」

(注4) 「スポーツや運動はしなかった」は平成28年以前では「スポーツや運動は実施しなかった」

(注5) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査（平成26年10月調査）」

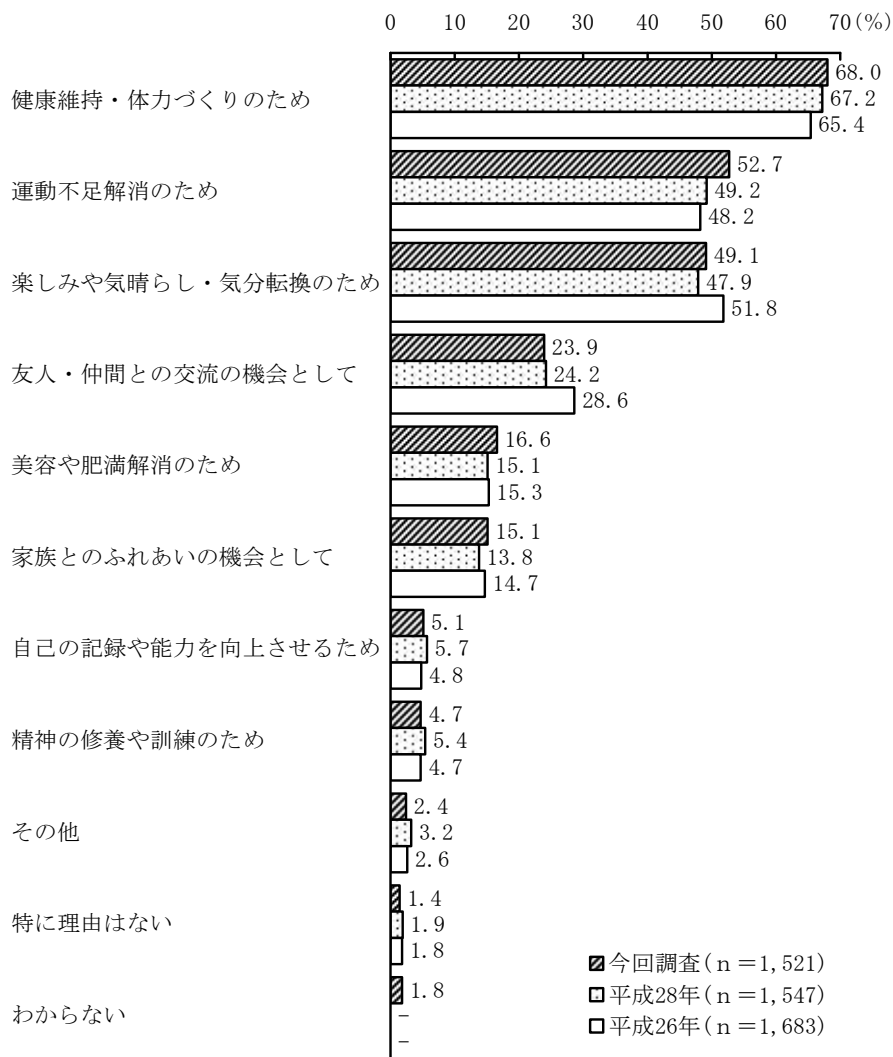
(2) スポーツ・運動を実施した理由

この1年間にスポーツや運動を実施したと答えた人（1,521人）に、実施した理由を聞いた。

(M. A.)

(本文P16～P18)

- ・「健康維持・体力づくりのため」が68%でトップ（平成28年より1ポイント増加）
- ・「運動不足解消のため」53%、「楽しみや気晴らし・気分転換のため」49%が続く



(注1) 「健康維持・体力づくりのため」は平成28年以前では「健康・体力づくりのため」

(注2) 「運動不足解消のため」は平成28年以前では「運動不足を感じるから」

(注3) 「楽しみや気晴らし・気分転換のため」は平成28年以前では「楽しみや、気晴らしとして」

(注4) 「友人・仲間との交流の機会として」は平成28年以前では「友人・仲間との交流として」

(注5) 「家族とのふれあいの機会として」は平成28年以前では「家族のふれあいとして」

(注6) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査（平成26年10月調査）」

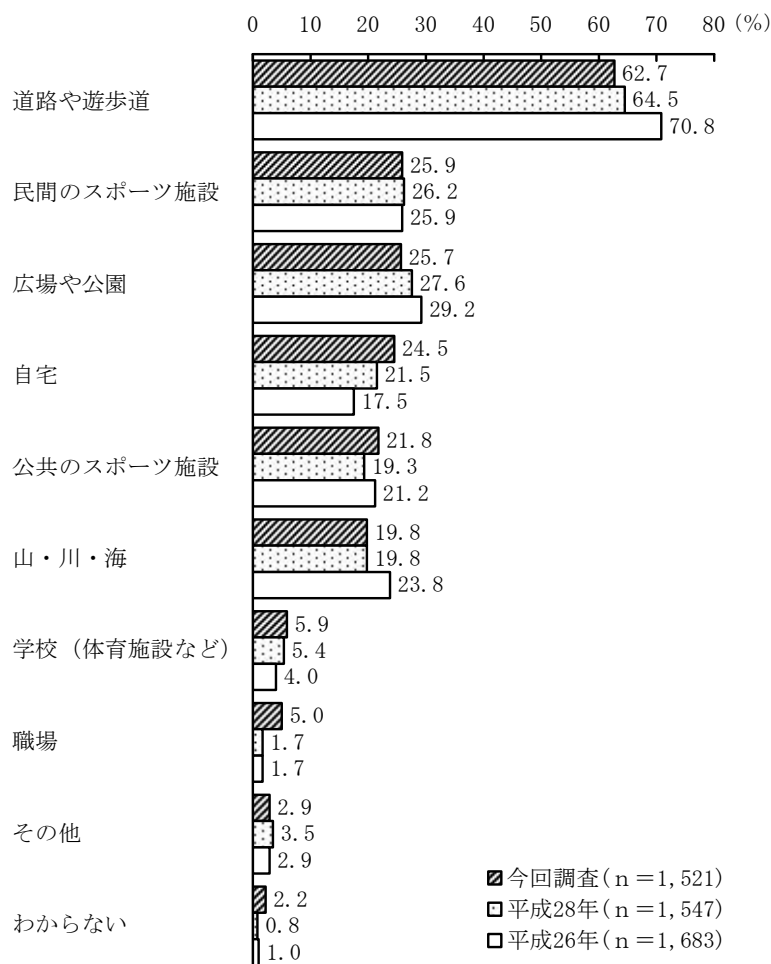
(3) スポーツ・運動を実施した場所

この1年間にスポーツや運動を実施したと答えた人（1,521人）に、実施した場所を聞いた。

(M. A.)

(本文P19～P21)

- ・「道路や遊歩道」が63%でトップ（平成28年より2ポイント減少）
- ・「民間のスポーツ施設」と「広場や公園」26%、「自宅」25%が続く



(注1) 「学校（体育施設など）」は平成28年以前では「学校の体育施設」

(注2) 「職場」は平成28年以前では「職場のスポーツ施設」

(注3) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査（平成26年10月調査）」

(4) スポーツ・運動を実施した頻度（スポーツ・運動の実施頻度）

この1年間のスポーツ・運動の実施頻度を聞いた。

(本文 P22～ P29)

- ・『週に1日以上実施』は57%（平成28年より1ポイント増加）
- ・『週に1日未満実施』は24%（平成28年より2ポイント減少）
- ・『スポーツや運動はしなかった』は16%（平成28年より1ポイント増加）

n	週に1日以上実施		週に1日未満実施		スポーツや運動はしなかった	
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
今回調査 (1,818)	57.2	23.7	2.9	16.3		
平成28年 (1,820)	56.3	26.1	2.6	15.0		
26年 (1,910)	60.5	26.3	1.3	11.9		

(注1) 「スポーツや運動はしなかった」は平成28年以前では「実施しなかった」

(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

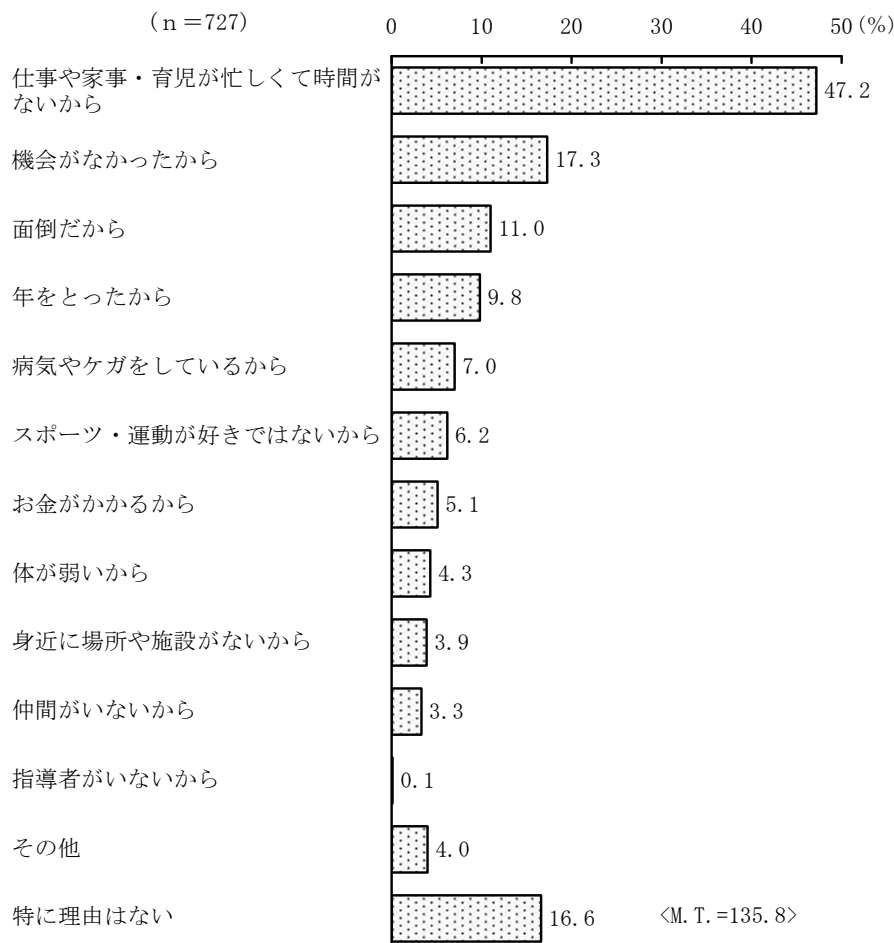
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査（平成26年10月調査）」

(5) スポーツ・運動を実施した頻度が週1日に満たなかった理由

この1年間に「スポーツや運動はしなかった」または、「週に1日未満」と答えた人（727人）に、その理由を聞いた。（M. A.）

(本文 P30～ P31)

- ・「仕事や家事・育児が忙しくて時間がないから」が47%でトップ
- ・「機会がなかったから」と「特に理由はない」17%、「面倒だから」11%が続く



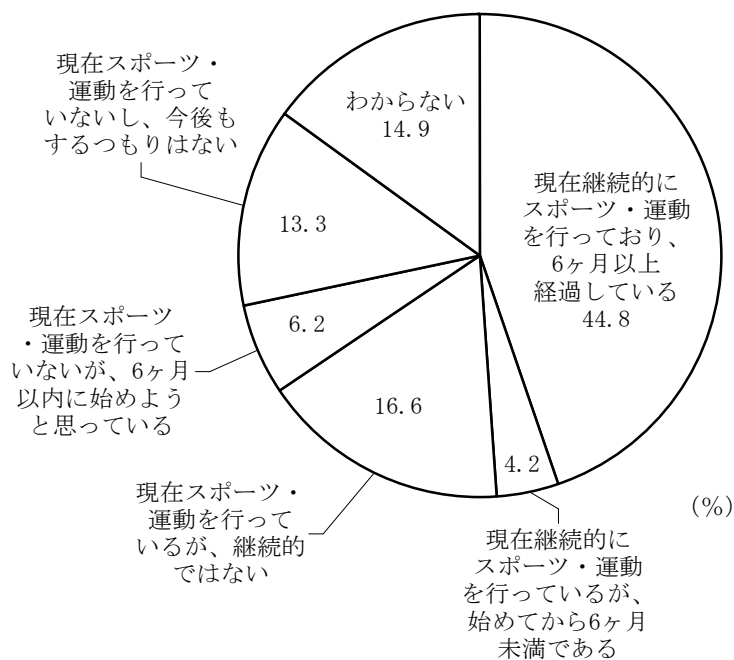
(6) スポーツ・運動に関する現在の実施状況と今後の意向

スポーツ・運動に関する現在の実施状況または今後の意向について聞いた。

(本文 P 32～P 35)

- ・「現在継続的にスポーツ・運動を行っており、6ヶ月以上経過している」が45%でトップ
- ・「現在スポーツ・運動を行っているが、継続的ではない」17%、「現在スポーツ・運動を行っていないし、今後もしない」13%が続く

(n=1,818)

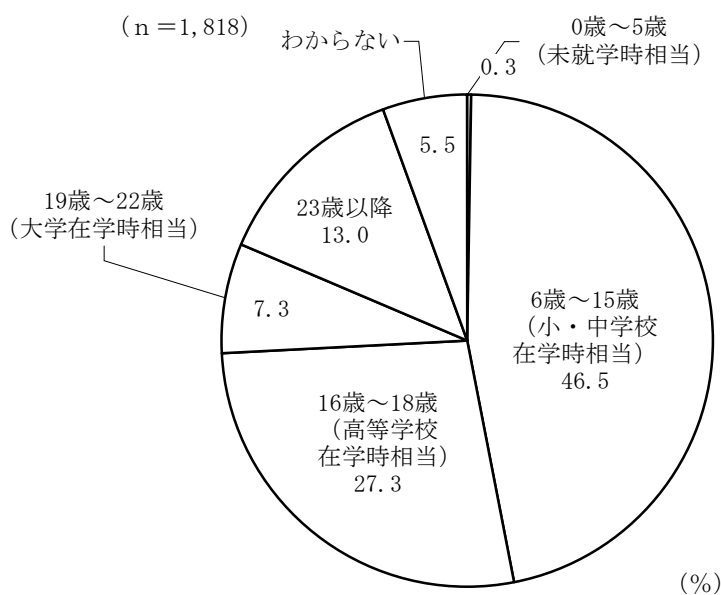


(7) 最もスポーツ・運動を行っていた時期

過去最もスポーツ・運動を行っていたと思うのはどの時期かを聞いた。

(本文 P 36～P 38)

- ・「6歳～15歳（小・中学校在学時相当）」が47%でトップ
- ・「16歳～18歳（高等学校在学時相当）」27%、「23歳以降」13%が続く



3 みるスポーツ

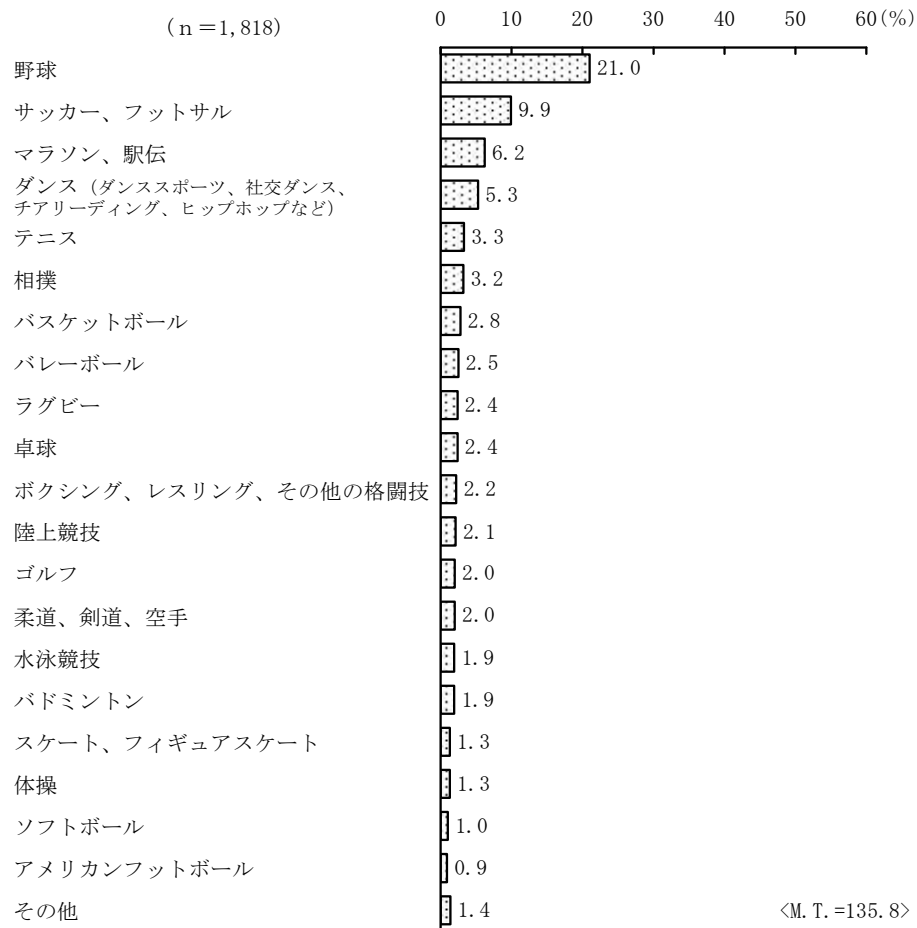
(1) この1年間に実際に観戦したスポーツ

この1年間にスタジアム・体育館・沿道などで実際に観戦したスポーツの種目を聞いた。

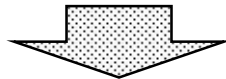
(M. A.)

(本文 P 39～ P 42)

- ・「野球」が21%でトップ
- ・「サッカー、フットサル」10%、「マラソン、駅伝」6%が続く

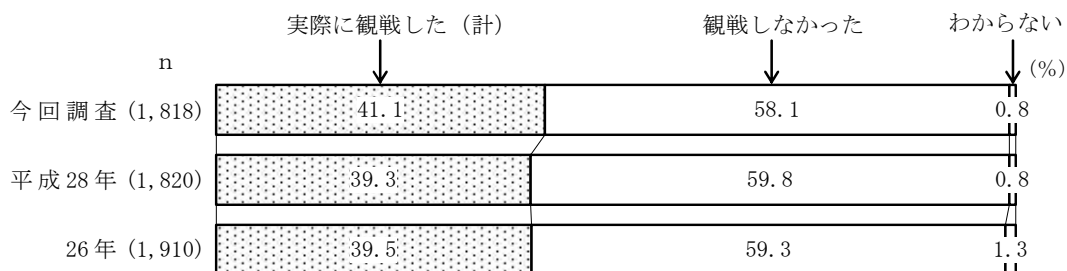


〔 上記選択肢を答えた人を『実際に観戦した (計)』とし、
「観戦しなかった」と答えた人との比率をみると以下の通り。 〕



[この1年間のスポーツ観戦の有無]

- ・『実際に観戦した (計)』は41% (平成28年より2ポイント増加)
- ・「観戦しなかった」は58% (平成28年より2ポイント減少)



(注1) 『実際に観戦した (計)』は「観戦しなかった」「わからない」以外の選択肢を選んだ人の割合

(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査 (平成28年9月調査)」

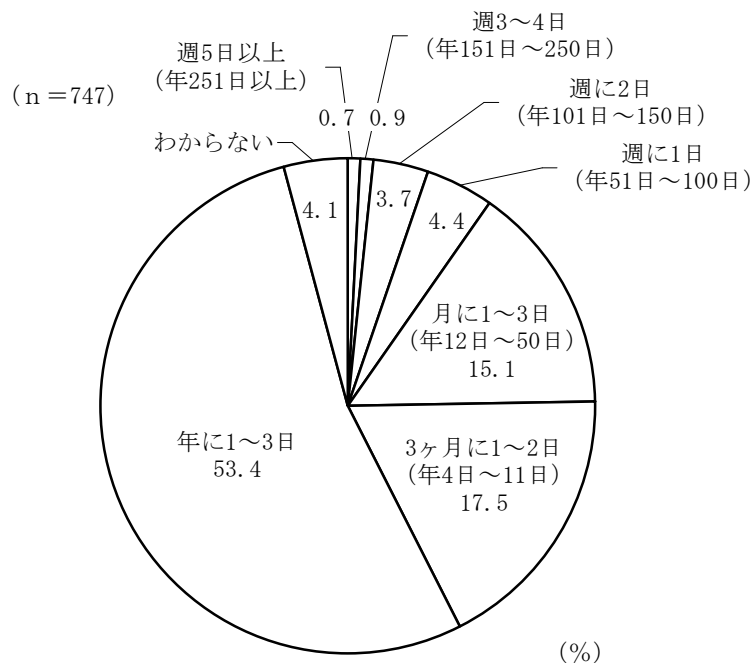
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査 (平成26年10月調査)」

(2) 実際にスポーツを観戦した日数

この1年間に実際にスポーツを観戦したことがあると答えた人（747人）に、スポーツを観戦した頻度はどの程度かを聞いた。

（本文 P 43～ P 45）

- ・「年に1～3日」が53%でトップ
- ・「3ヶ月に1～2日（年4日～11日）」18%、「月に1～3日（年12日～50日）」15%が続く

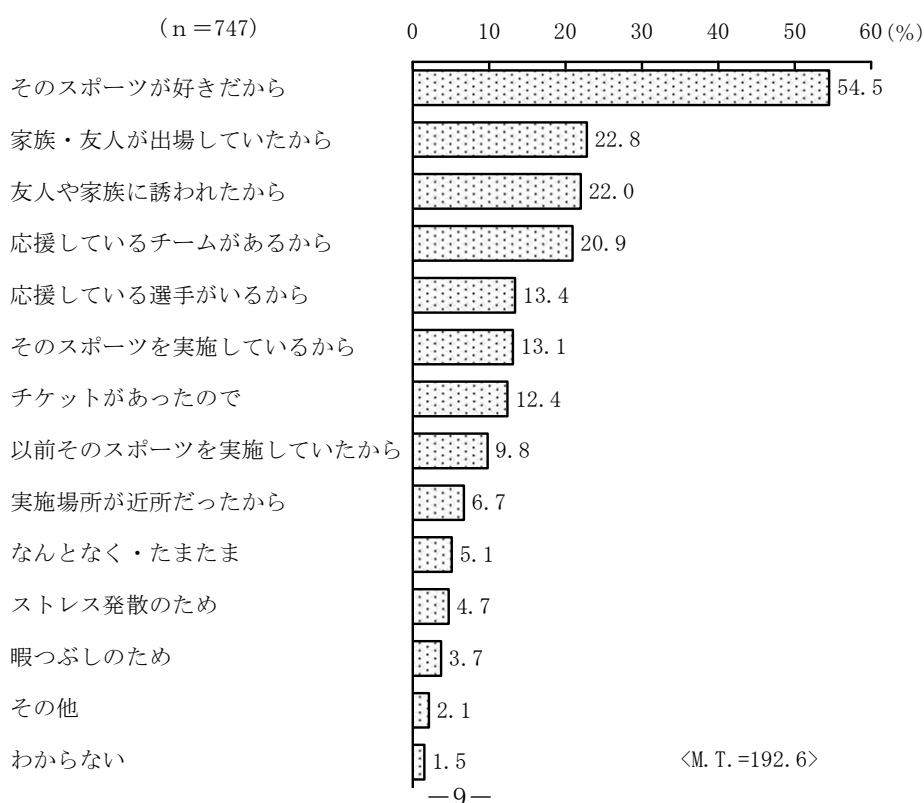


(3) スポーツを観戦した理由

この1年間に実際にスポーツを観戦したことがあると答えた人（747人）に、観戦した理由を聞いた。（M. A.）

（本文 P 46～ P 47）

- ・「そのスポーツが好きだから」が55%でトップ
- ・「家族・友人が出演していたから」23%、「友人や家族に誘われたから」22%が続く

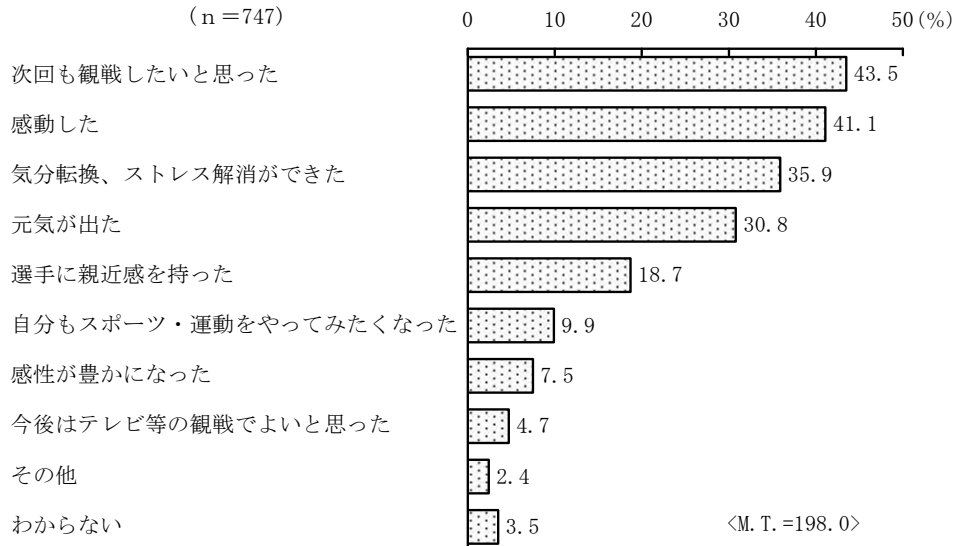


(4) スポーツを実際に観戦して、強く感じたこと

この1年間に実際にスポーツを観戦したことがあると答えた人(747人)に、実際に観戦して、テレビ等観戦と比較してどのようなことを強く感じたかを聞いた。(M. A.)

(本文P 48～P 49)

- ・「次回も観戦したいと思った」が44%でトップ
- ・「感動した」41%、「気分転換、ストレス解消ができた」36%が続く

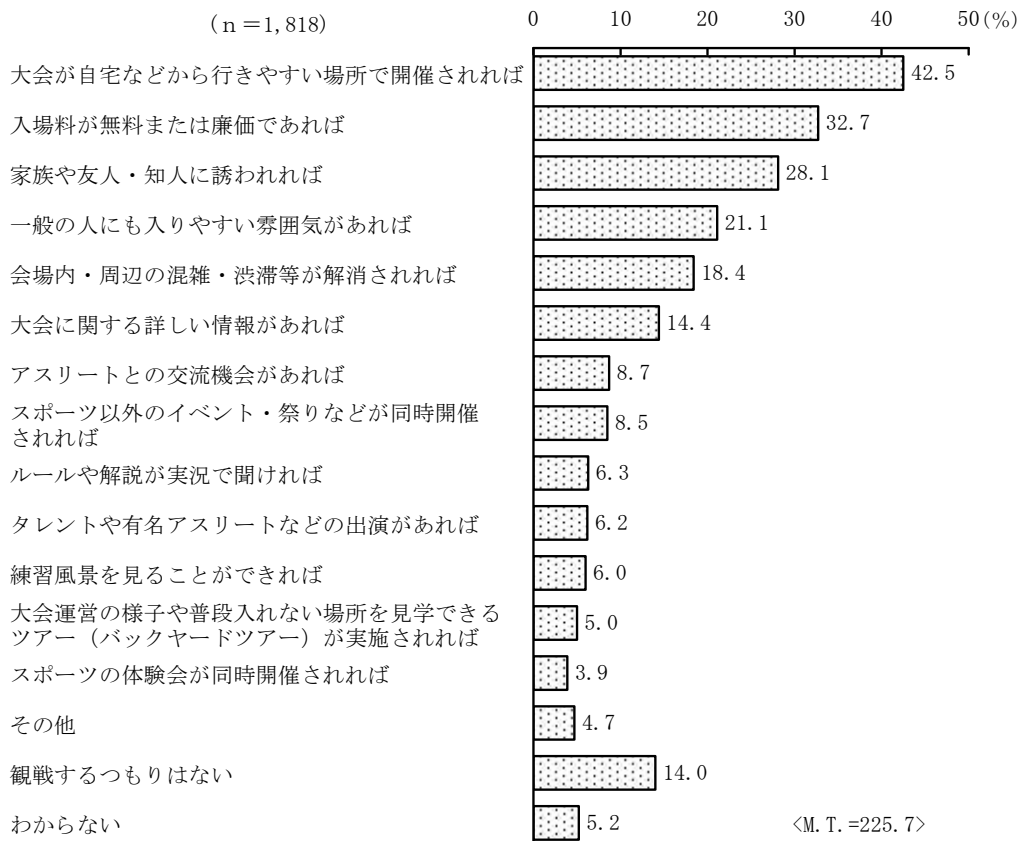


(5) スポーツを実際に観戦してみようと思う取組・工夫

どのような取組・工夫があればスポーツを実際に(さらに)観戦してみようと思うかを聞いた。(M. A.)

(本文P 50～P 51)

- ・「大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば」が43%でトップ
- ・「入場料が無料または廉価であれば」33%、「家族や友人・知人に誘われれば」28%が続く



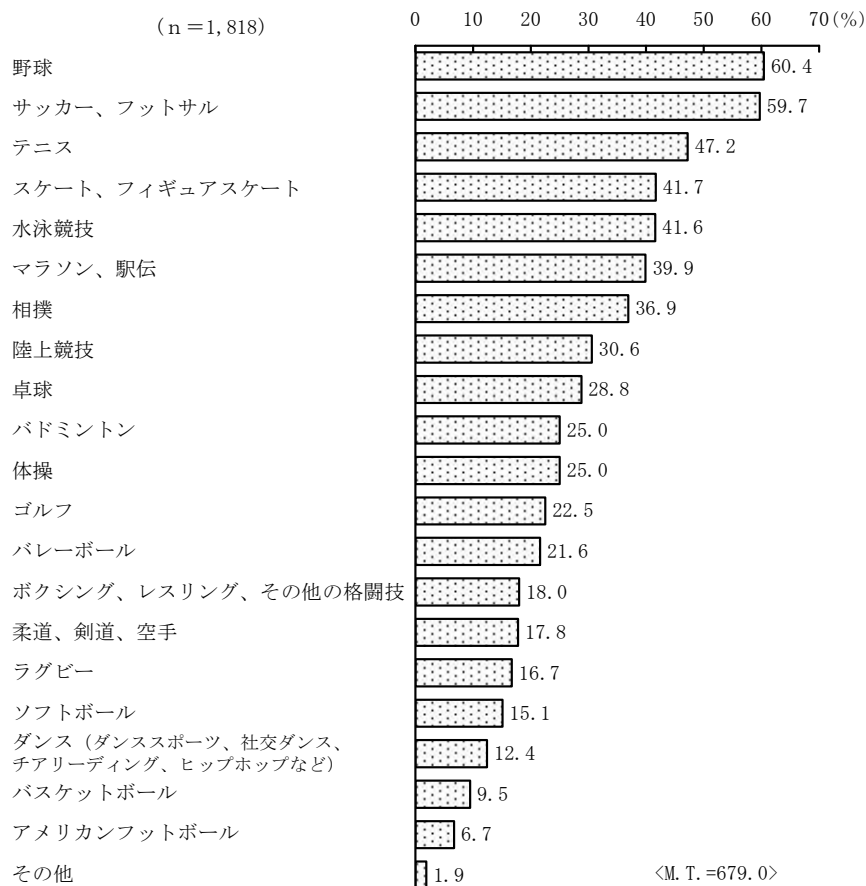
(6) この1年間にテレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦したスポーツ

この1年間にテレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦したスポーツの種目を聞いた。

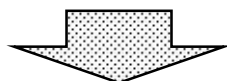
(M. A.)

(本文 P 52～P 55)

- ・「野球」と「サッカー、フットサル」が60%でトップ
- ・「テニス」47%、「スケート、フィギュアスケート」と「水泳競技」42%が続く



上記選択肢を答えた人を『テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した (計)』とし、「観戦しなかった」と答えた人との比率をみると以下の通り。



【この1年間のテレビ・ラジオ・インターネット配信等での観戦の有無】

- ・『テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した (計)』は91% (平成28年より1ポイント減少)
- ・「観戦しなかった」は8% (平成28年より1ポイント増加)



(注1) 『テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した (計)』は「観戦しなかった」「わからない」以外の選択肢を選んだ人の割合

(注2) 『テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した (計)』は平成26年では『テレビ・ラジオで観戦した (計)』

(注3) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査 (平成28年9月調査)」

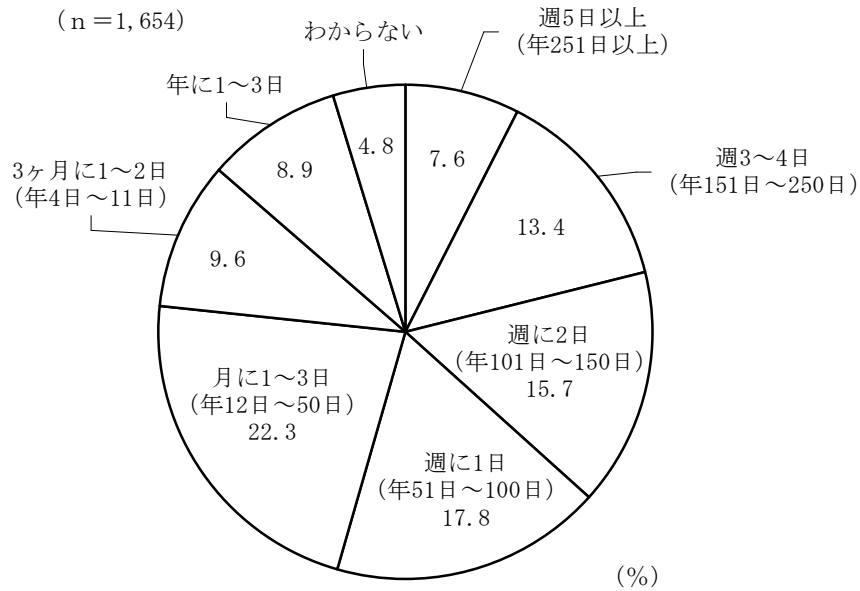
平成26年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査 (平成26年10月調査)」

(7) テレビ・ラジオ・インターネット配信等でスポーツを観戦した日数

テレビ・ラジオ・インターネット配信等でスポーツを観戦したことがあると答えた人（1,654人）に、スポーツを観戦した頻度はどの程度かを聞いた。

（本文P56～P57）

- ・「月に1～3日（年12日～50日）」が22%でトップ
- ・「週に1日（年51日～100日）」18%、「週に2日（年101日～150日）」16%が続く



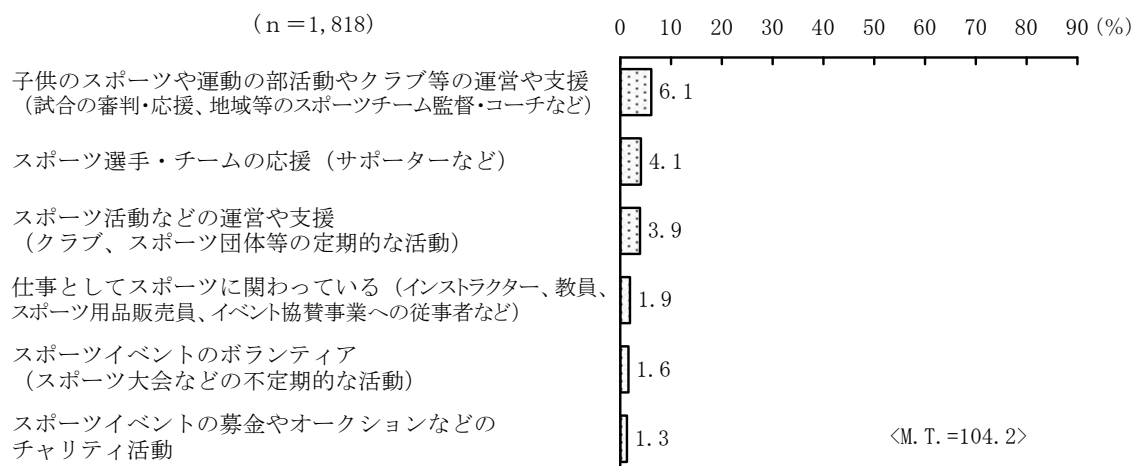
4 支えるスポーツ

(1) この1年間に関わったスポーツを支える活動

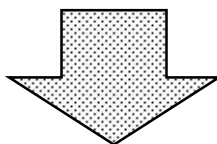
この1年間に関わったスポーツを支える活動を聞いた。(M. A.)

(本文 P 58～P 63)

- ・「子供のスポーツや運動の部活動やクラブ等の運営や支援（試合の審判・応援、地域等のスポーツチーム監督・コーチなど）」が6%でトップ
- ・「スポーツ選手・チームの応援（サポーターなど）」と「スポーツ活動などの運営や支援（クラブ、スポーツ団体等の定期的な活動）」4%が続く

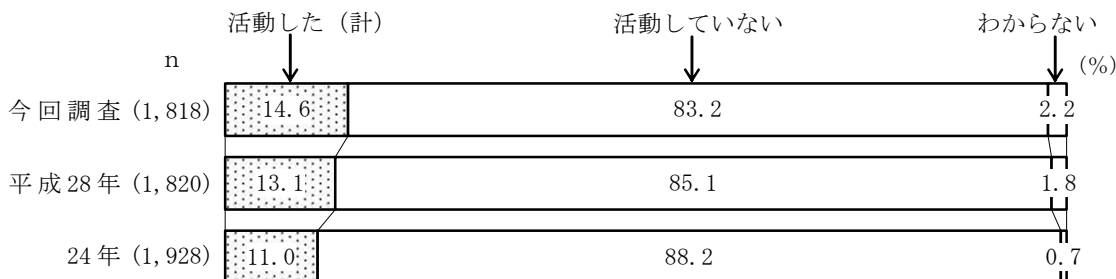


〔 上記選択肢を答えた人を『活動した (計)』とし、
「活動していない」と答えた人との比率をみると以下の通り。 〕



[この1年間に関わったスポーツを支える活動の有無]

- ・『活動した (計)』は15% (平成28年より2ポイント増加)
- ・「活動していない」は83% (平成28年より2ポイント減少)



(注1) 『活動した (計)』は「活動していない」「わからない」以外の選択肢を選んだ人の割合

(注2) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査 (平成28年9月調査)」

平成24年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査 (平成24年7月調査)」

(2) スポーツを支える活動を行った日数

スポーツを支える活動を行ったと答えた人（266人）に、活動を行った頻度はどの程度かを聞いた。

（本文 P 64～ P 66）

- ・「年に1～3日」が25%でトップ（平成28年とほぼ同様）
- ・「月に1～3日（年12日～50日）」22%（平成28年より3ポイント増加）
- ・「3ヶ月に1～2日（年4日～11日）」15%（平成28年より6ポイント減少）

	n	週5日以上 (年251日以上)	週3～4日 (年151日～250日)	週に2日 (年101日～150日)	週に1日 (年51日～100日)	月に1～3日 (年12日～50日)	3ヶ月に1～2日 (年4日～11日)	年に1～3日	わからない	(%)
今回調査	(266)	3.4	8.6	10.9	12.8	21.8	14.7	24.8	3.0	
平成28年	(239)	4.6	7.5	8.4	13.0	18.4	20.5	24.7	2.9	
24年	(213)	7.0	5.2	7.5	14.1	24.9	15.0	23.5	2.8	

（注）平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」
平成24年は「都民のスポーツ活動に関する世論調査（平成24年7月調査）」

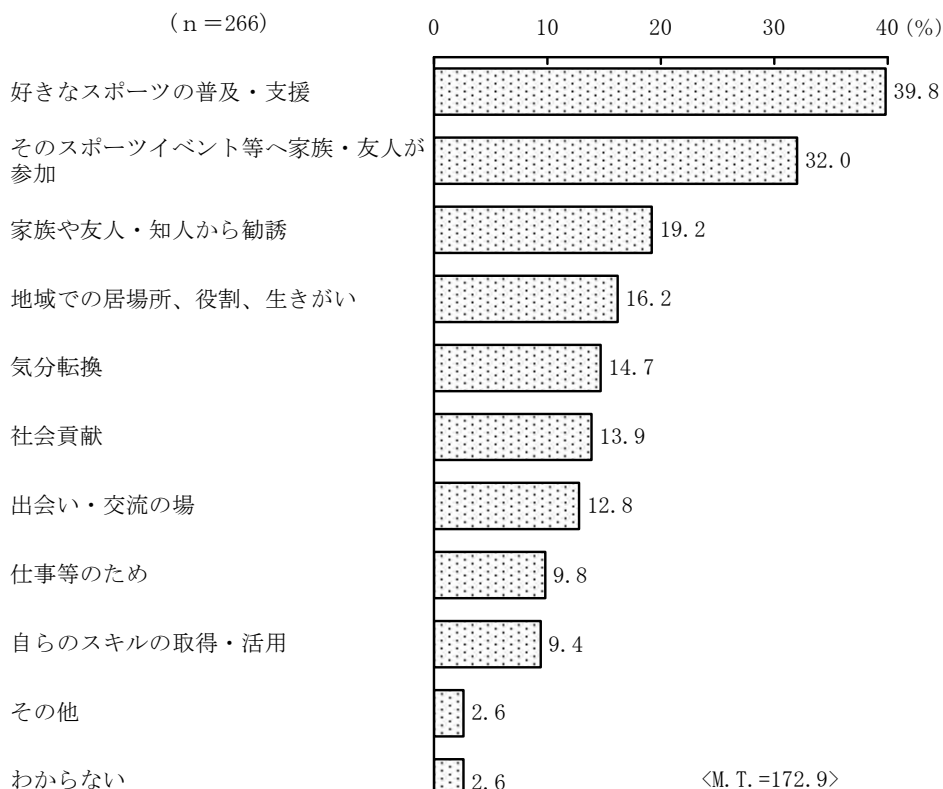
(3) スポーツを支える活動を行った理由

スポーツを支える活動を行ったと答えた人（266人）に、活動を行った理由を聞いた。

（M. A.）

（本文 P 67～ P 69）

- ・「好きなスポーツの普及・支援」が40%でトップ
- ・「そのスポーツイベント等へ家族・友人が参加」32%、「家族や友人・知人から勧誘」19%が続く

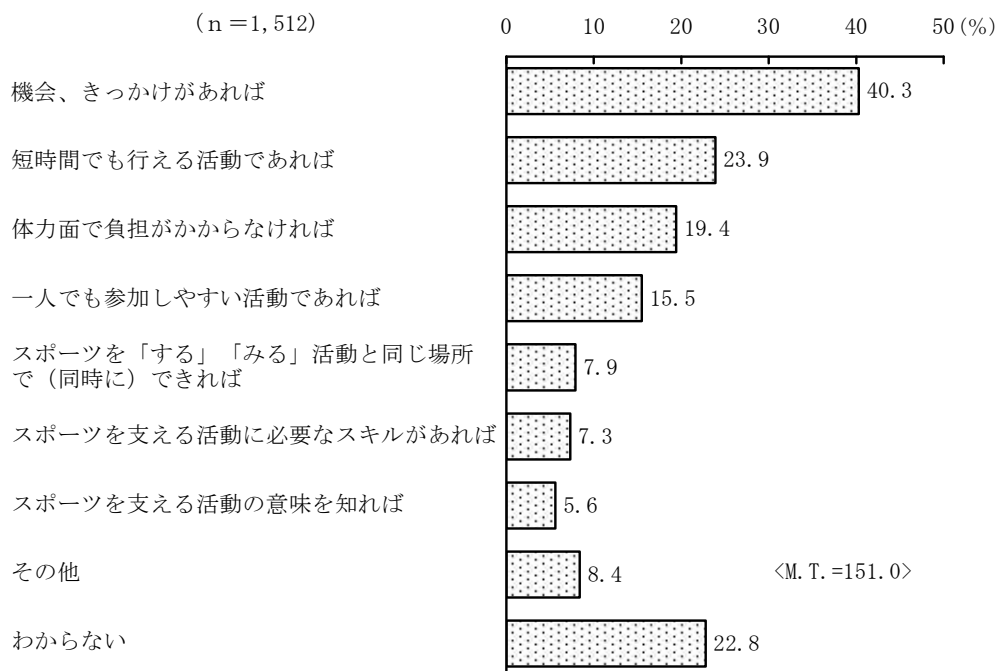


(4) スポーツを支える活動を行える、活動する人を増やせると思う環境

スポーツを支える活動をしていないと答えた人(1,512人)に、どのような環境を整えば、スポーツを支える活動を行える、また活動する人を増やせると思うかを聞いた。(M. A.)

(本文P70～P72)

- ・「機会、きっかけがあれば」が40%でトップ
- ・「短時間でも行える活動であれば」24%、「体力面で負担がかからなければ」19%が続く



5 ラグビーワールドカップ2019™の周知度・関心度

(1) ラグビーワールドカップ2019™の開催地の認知度

日本のどこの自治体で開催されるかを知っているかを聞いた。

(本文 P73～P74)

- ・「日本でラグビーワールドカップ2019™が開催されることを知らない」は35%でトップ（平成28年より10ポイント減少）
- ・「開催される自治体名は分からないが、日本で開催されることは知っている」が32%（平成28年より5ポイント増加）
- ・「東京都以外にも他の自治体で開催されることを知っている」が18%（平成28年より7ポイント増加）

n	東京でラグビーワールドカップ2019™が開催されることを知っている			
	東京都以外にも他の自治体で開催されることを知っている	東京都で開催されることは知っている	開催される自治体名は分からないが、日本で開催されることは知っている	日本でラグビーワールドカップ2019™が開催されることを知らない
今回調査 (1,818)	17.5	15.8	32.2	34.5
平成28年 (1,820)	10.3	17.3	27.7	44.8

(%)

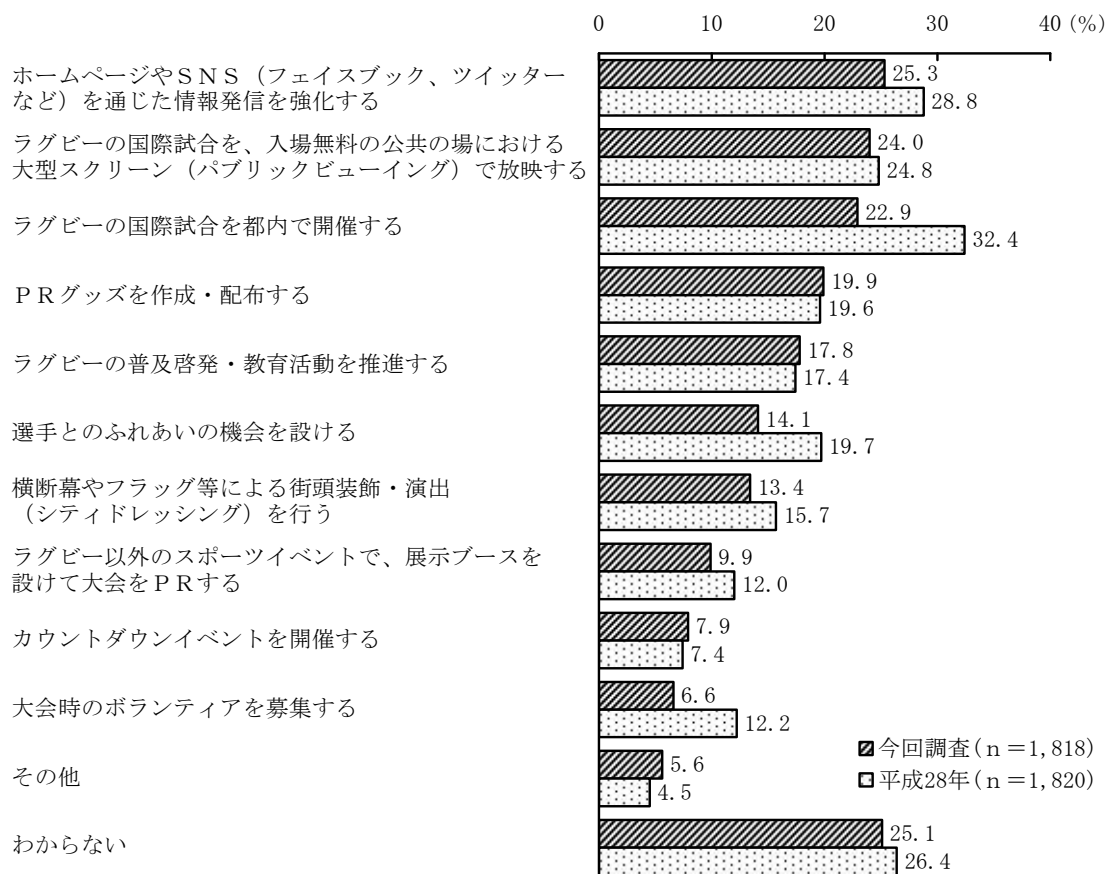
(注) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(2) ラグビーワールドカップ2019™の関心を高めるための有効な取組

ラグビーワールドカップ2019™の関心を高めるための有効な取組を聞いた。(M. A.)

(本文 P 75～P 77)

- ・「ホームページやSNS（フェイスブック、ツイッターなど）を通じた情報発信を強化する」が25%でトップ（平成28年より4ポイント減少）
- ・「ラグビーの国際試合を、入場無料の公共の場における大型スクリーン（パブリックビューイング）で放映する」24%、「ラグビーの国際試合を都内で開催する」23%が続く



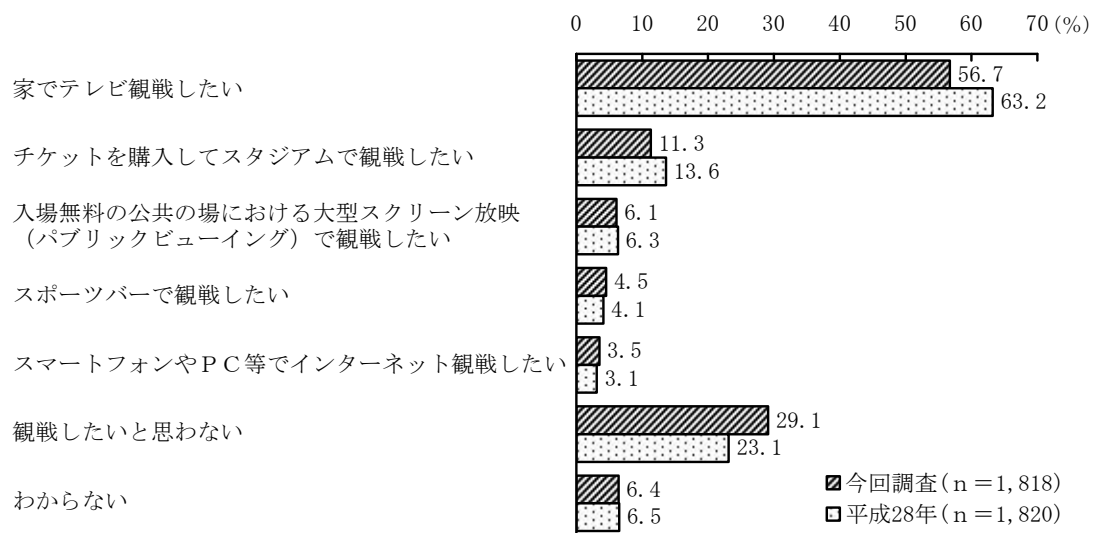
(注) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(3) ラグビーワールドカップ2019™の観戦希望

ラグビーワールドカップ2019™をどのようにして観戦したいかを聞いた。(M. A.)

(本文P78～P79)

- ・「家でテレビ観戦したい」が57%でトップ（平成28年より7ポイント減少）
- ・「チケットを購入してスタジアムで観戦したい」11%、「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（パブリックビューイング）で観戦したい」6%が続く



(注) 平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

6 障害者スポーツ・パラリンピックへの関心度等

(1) 障害者スポーツへの関心度

障害者スポーツへの関心度を聞いた。

(本文P80～P83)

- ・『関心がある（計）』が59%（平成29年より2ポイント増加）
- ・『関心がない（計）』は34%（平成29年より6ポイント減少）

n	関心度					関心がある （計）	関心がない （計）
	関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない ↓	わからない ↓		
今回調査 (1,818)	21.5	37.7	25.9	7.6	7.3	59.2	33.5
平成29年 (1,907)	19.2	37.9	28.0	11.0	3.9	57.1	39.0
28年 (1,820)	22.5	35.5	26.5	10.1	5.4	58.0	36.6

(注1) 『関心がある（計）』は「関心がある」「やや関心がある」の合計

『関心がない（計）』は「関心がない」「あまり関心がない」の合計

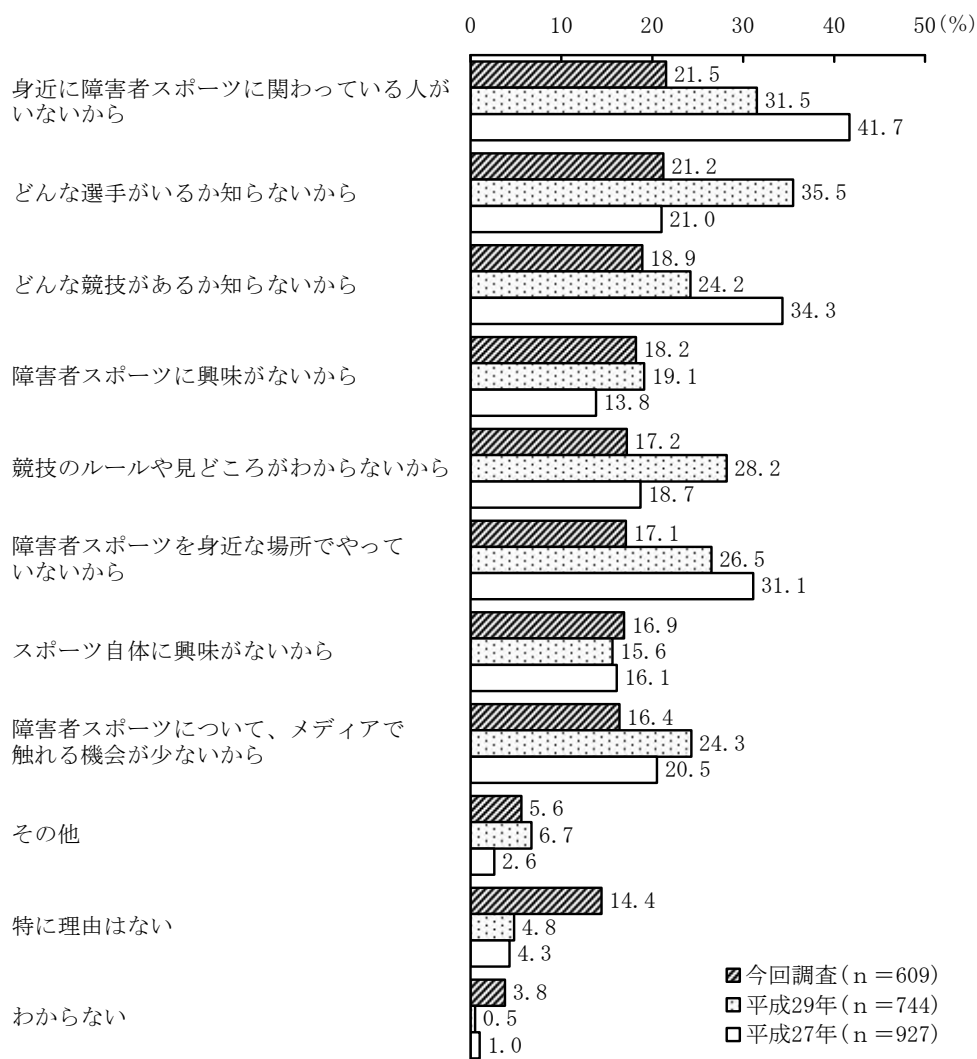
(注2) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」

平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(2) 障害者スポーツに関心がない理由

障害者スポーツに関心がないと答えた人（609人）に、関心がない理由を聞いた。（M. A.）
（本文P84～P87）

- ・「身近に障害者スポーツに関わっている人がいないから」が22%でトップ（平成29年より10ポイント減少）
- ・「どんな選手がいるか知らないから」21%、「どんな競技があるか知らないから」19%が続く



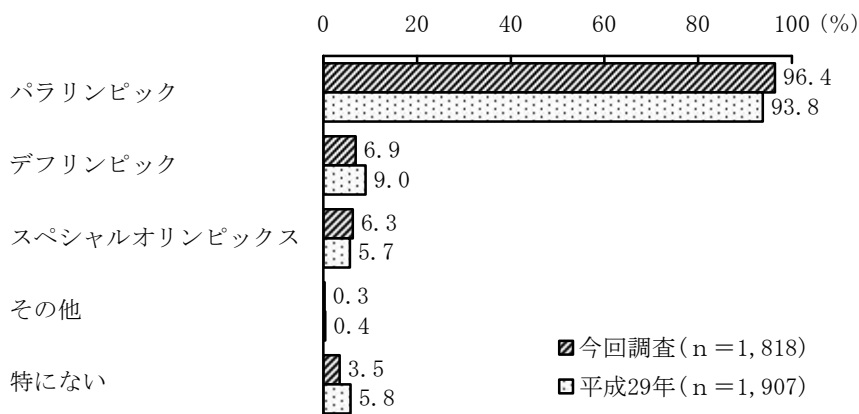
(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」
平成27年は「都民生活に関する世論調査（平成27年8月調査）」

(3) 障害者スポーツの国際大会の認知度

障害者スポーツの国際大会の認知度を聞いた。(M. A.)

(本文P88～P90)

- ・「パラリンピック」が96%でトップ（平成29年より3ポイント増加）
- ・「デフリンピック」7%（平成29年より2ポイント減少）
- ・「スペシャルオリンピックス」6%（平成29年より1ポイント増加）



(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」

※ デフリンピックとは

身体障害者のオリンピック「パラリンピック」に対し「デフリンピック (Deaflympics)」は、ろう者のオリンピックとして、夏季大会は1924年にフランスで、冬季大会は1949年にオーストリアで初めて開催されています。障害当事者であるろう者自身が運営する、ろう者のための国際的なスポーツ大会であり、また参加者が国際手話によるコミュニケーションで友好を深められるところに大きな特徴があります。

< (一財) 全日本ろうあ連盟スポーツ委員会デフリンピック啓発ウェブサイトより引用 >

<http://www.jfd.or.jp/deaflympics/games/about.php>

※ スペシャルオリンピックスとは

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちに継続的なスポーツトレーニングとその発表の場である競技会の提供を使命とし、活動を通して彼らの自立と社会参加を促進し、生活の質を豊かにすることを目的とする活動です。オリンピック、パラリンピック同様、4年に一度夏季、冬季の世界大会が開催されます。日本でも世界大会への予選会を兼ねて全国大会を行っています。

< (公財) スペシャルオリンピックス日本公式サイトより引用 >

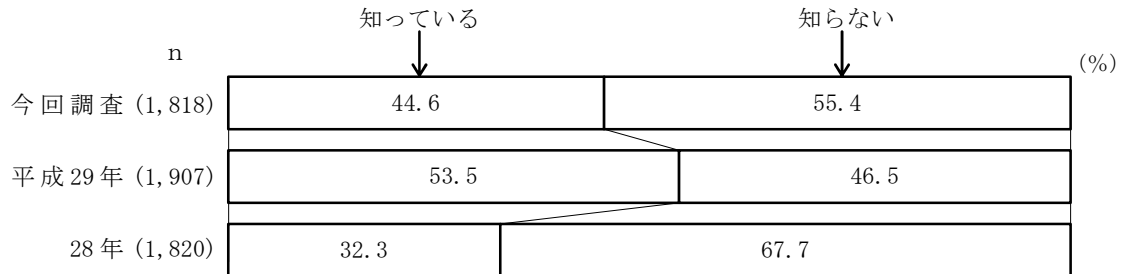
<http://www.son.or.jp/about/index.html>

(4) パラリンピックのシンボルマーク（スリーアギトス）の認知度

パラリンピックのシンボルマーク（スリーアギトス）の認知度を聞いた。

(本文 P91～P93)

- ・「知っている」は45%（平成29年より9ポイント減少）
- ・「知らない」は55%（平成29年より9ポイント増加）



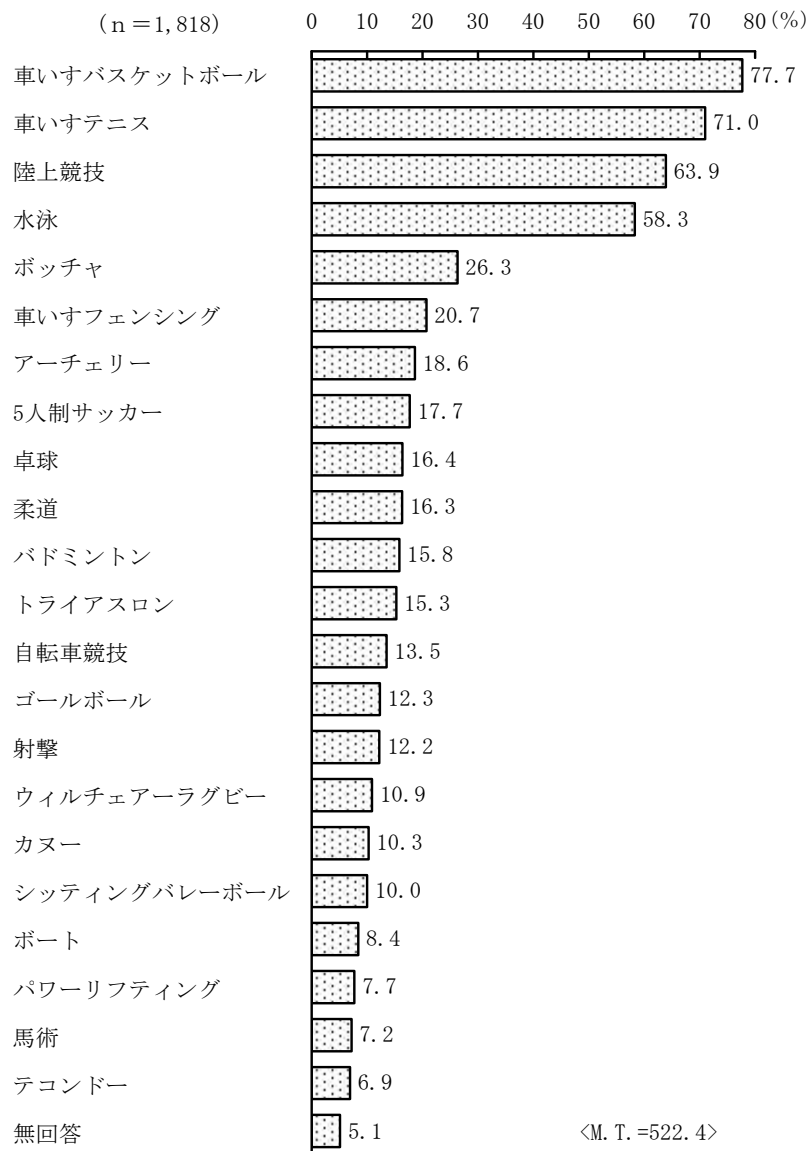
(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」
平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(5) 東京2020パラリンピックで実施する競技の認知度

東京2020パラリンピックで実施する競技の認知度を聞いた。(M. A.)

(本文P94～P96)

- ・「車いすバスケットボール」が78%でトップ
- ・「車いすテニス」71%、「陸上競技」64%が続く

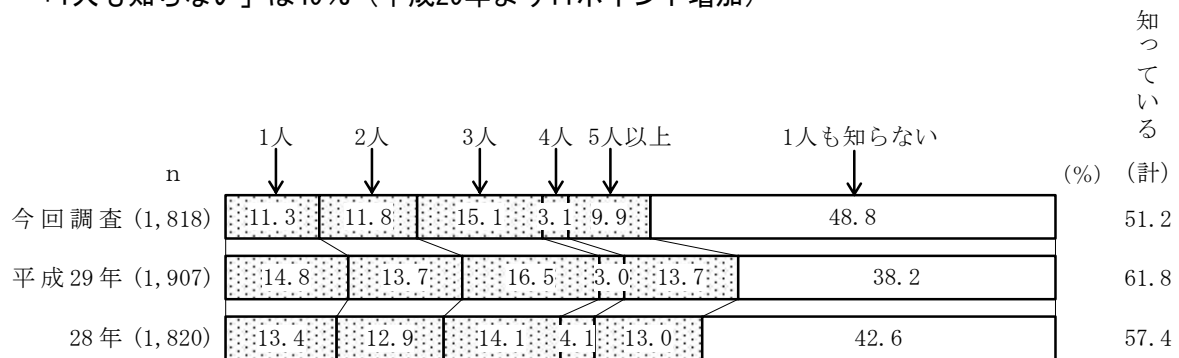


(6) パラリンピック選手の認知度

パラリンピック選手の認知度を聞いた。

(本文P97～P99)

- ・『知っている（計）』は51%（平成29年より11ポイント減少）
- ・「1人も知らない」は49%（平成29年より11ポイント増加）



(注1) 『知っている（計）』は「1人」～「5人以上」の合計

(注2) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」
平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

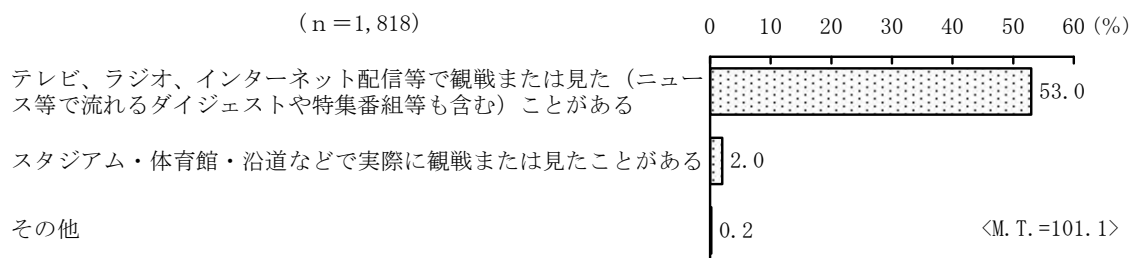
(7) 障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見た経験

この1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見た経験について聞いた。

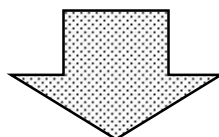
(M. A.)

(本文 P 100～P 103)

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦または見た（ニュース等で流れるダイジェストや特集番組等も含む）ことがある」が53%でトップ

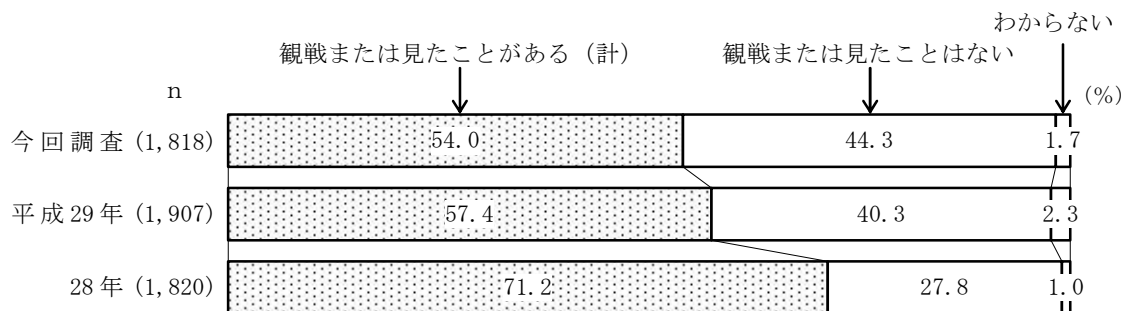


（ 上記選択肢を答えた人を『観戦または見たことがある（計）』とし、「観戦または見たことはない」と答えた人との比率をみると以下の通り。 ）



[この1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見た経験の有無]

- ・『観戦または見たことがある（計）』は54%（平成29年より3ポイント減少）
- ・「観戦または見たことはない」は44%（平成29年より4ポイント増加）



(注1) 『観戦または見たことがある（計）』は「観戦または見たことはない」「わからない」以外の選択肢を選んだ人の割合

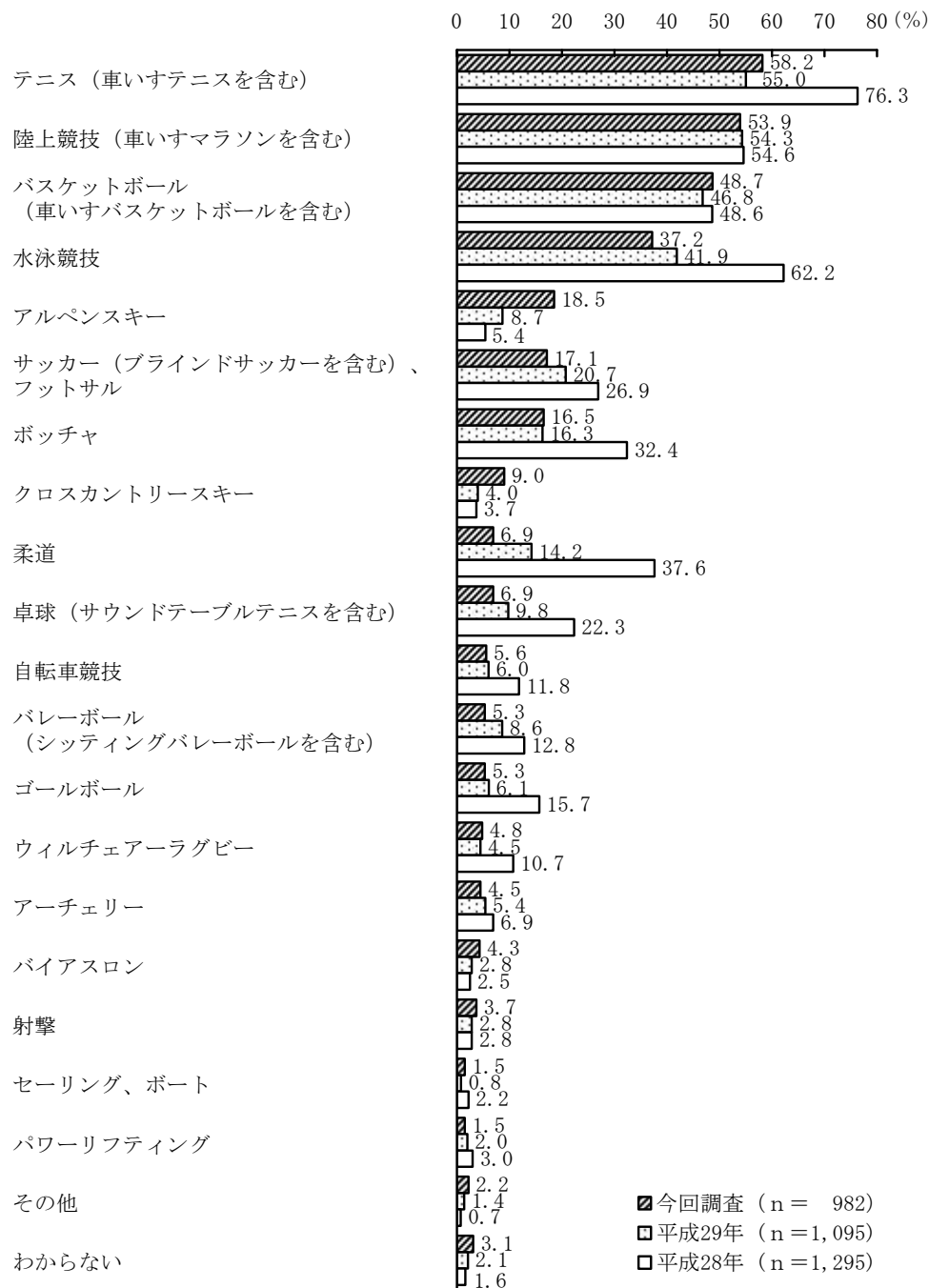
(注2) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」
平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(8) 障害者スポーツやパラリンピック競技で観戦、見たことがある競技

この1年間に障害者スポーツやパラリンピック競技を観戦または見たことがあると答えた人（982人）に、観戦または見た種目を聞いた。（M. A.）

（本文P104～P107）

- ・「テニス（車いすテニスを含む）」が58%でトップ（平成29年より3ポイント増加）
- ・「陸上競技（車いすマラソンを含む）」54%、「バスケットボール（車いすバスケットボールを含む）」49%が続く



(注1) 「自転車競技」は平成29年では「自転車」

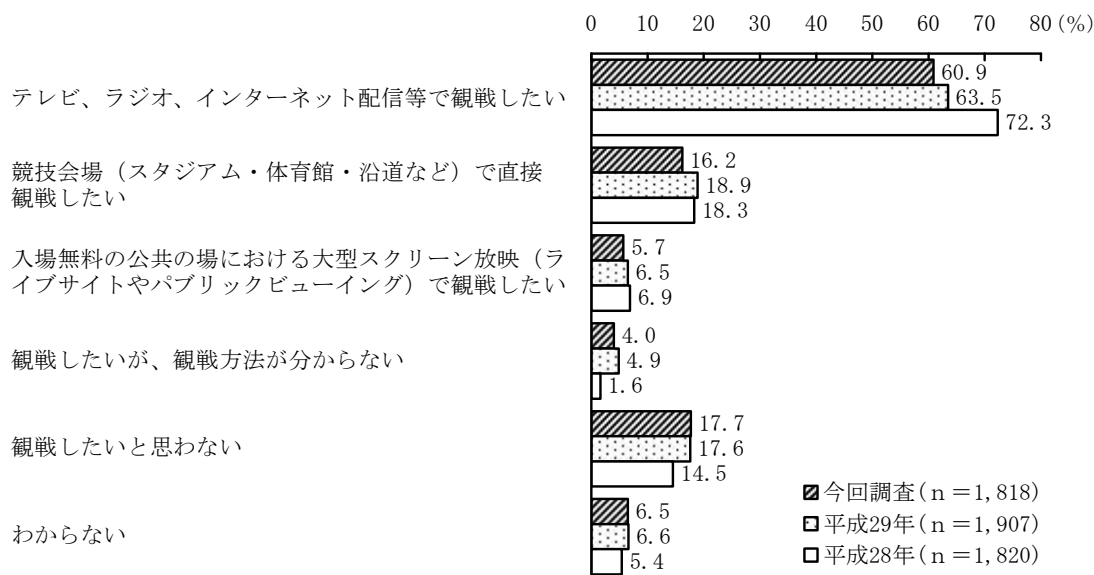
(注2) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」
平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(9) 東京2020パラリンピック競技大会の観戦方法

東京2020パラリンピック競技大会の観戦方法を聞いた。(M. A.)

(本文P108～P111)

- ・「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が61%でトップ（平成29年より3ポイント減少）
- ・「競技会場（スタジアム・体育館・沿道など）で直接観戦したい」16%、「入場無料の公共の場における大型スクリーン放映（ライブサイトやパブリックビューイング）で観戦したい」6%が続く



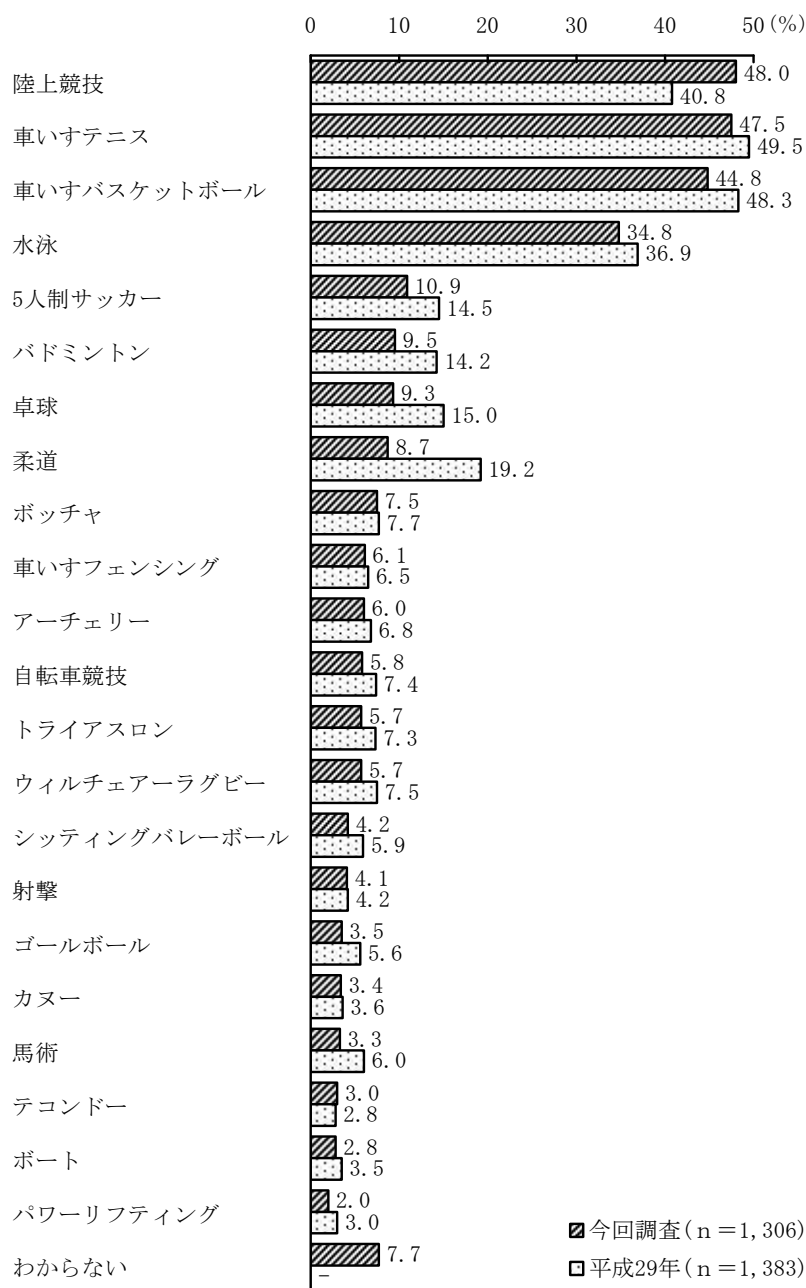
(注) 平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」
平成28年は「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査（平成28年9月調査）」

(10) 東京2020パラリンピック競技大会で観戦したい競技

東京2020パラリンピック競技大会を観戦したいと答えた人（1,306人）に、どの競技を観戦したいかを聞いた。（M. A.）

（本文P112～P115）

- ・「陸上競技」が48%（平成29年より7ポイント増加）
- ・「車いすテニス」が48%（平成29年より2ポイント減少）
- ・「車いすバスケットボール」45%、「水泳」35%が続く



（注）平成29年は「オリンピック・パラリンピック開催、障害者スポーツに関する世論調査（平成29年9月調査）」

(11) 競技会場で観戦したいと思わない理由

東京2020パラリンピック競技大会を観戦したいと答えた人の中で、競技会場で直接観戦したいと答えなかった人（1,012人）に、競技会場で観戦したいと思わない理由を聞いた。

(M. A.)

(本文P116～P118)

- ・「競技会場に行くことが難しい」が45%でトップ
- ・「観戦するのに費用がかかる」26%、「競技会場がわからない」19%が続く

